



『耳納風土記』⑥

太古の芸術作品～死生観を表現した珍敷塚古墳～

めずらしづかこふん

装飾古墳シリーズ2つ目の古墳は珍敷塚古墳です。いきなりですがみなさん、「めずらしづかこふん」とちゃんと読めましたか？これを「ちんしきづかこふん」などと呼んでしまう人が後を絶たず悲しい気持ちになることもしばしば、、、実は古墳マニアの中では全国的にも有名な古墳になりますので、ぜひとも覚えておいて下さい。

さて、そんな珍敷塚古墳は吉井町富永の県道151号線沿いに立地する円墳です。しかしこの古墳は今では墳丘が残っておらず、石材が一部残されるのみという非常に残念な状態になってしまっています。そのような状態なのになぜ全国的に有名なのかというと、残された奥壁に描かれた装飾が見応え抜群だからです。ではまず初めに、その装飾を細かく見ていきましょう。

珍敷塚古墳の装飾は全体的に具体的なモノを描いて構成されており、ストーリー性が抜群なのが特徴です。絵は赤と青（灰）の顔料と岩の地肌を利用して3色の色合いで構成されています。詳しくは写真と説明付きのイラストを見ていただきたいのですが、ここでちょっと前回の耳納風土記（広報うきは9月15日号）を思い出してください。日岡古墳の装飾を紹介しましたね。日岡古墳の装飾も全国随一の見事なものです。この2つの古墳の装飾の大きな違いに気づきますか？実は日岡古墳は全体的に丸や三角形などの幾何学文を中心に構成されているのです。それに対して珍敷塚古墳は全体的に具体的なモノを中心に描かれています。この2つの古墳は、同じ装飾古墳でも造られた時期に大きな差があります。日岡古墳は6世紀初頭頃、珍敷塚古墳は6世紀後半頃に造られたと考えられており、約50年～100年ほどの差があります。つまり、装飾古墳に描かれる文様や図案にも流行り廃りがあり、幾何学的で抽象的な装飾から、具体的なイメージや思想を表現した装飾に変化していったということです。

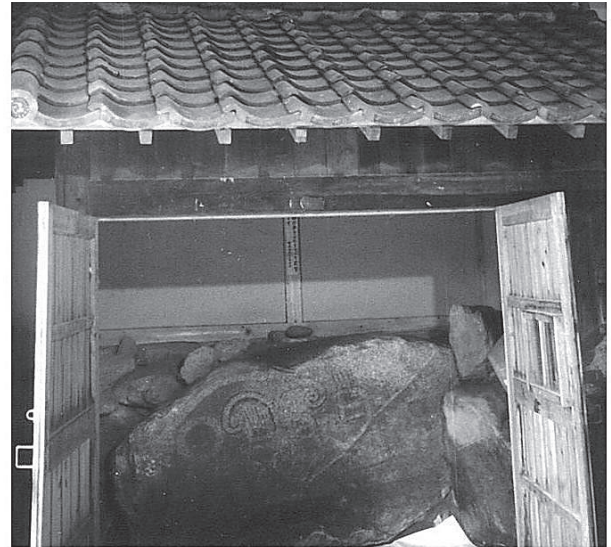


珍敷塚古墳装飾の解説イラスト



次に、珍敷塚古墳の装飾の意味について考えてみましょう。古代中国（前漢時代）の思想書『淮南子』には、月に上った仙女が蟾蜍（カエル）になった話が記されています。これ以降、古代中国では月にはカエルが住むと考えられていました。珍敷塚古墳の装飾は、生者の住む太陽の世界（左側）から、死者の住む月の世界（右側）へと船で渡っていくように見えます。面白いのは、この装飾の中には、日岡古墳と同じく靱や蕨手文もしっかりと描かれているということです。つまり、珍敷塚古墳の装飾は、先代からの日本の伝統的図案も受け継ぎつつ、当時最先端の大陸の思想も取り入れて、独自の死生観を生み出したと言えるのです。

さて、これで珍敷塚古墳の魅力を分かっていただけかと思います。しかし実はこの古墳は二度ほど完全に消滅しかけているのです。では最後に、この珍敷塚古墳が辿った数奇な運命について紹介したいと思います。当地には次のような言い伝えが残されていました。「江戸時代に、珍しい絵が描かれた古墳が破壊されたが、最後の一石を大男数人が縄をかけて運び出そうと試行錯誤していると、次々と熱病にかかった。祟りを恐れた人々は古墳を埋め戻したところ、全員が元気になった。」多少の脚色はあるにしても、古墳が壊されそうになったのはおそらく事実でしょう。そして古墳の存在が忘れ去られて久しい昭和25年1月、千代久区に住む男性が自転車を走らせていると、工事現場で崩壊した古墳に発破が仕掛けられ、爆破される寸前になっているのを発見しました。その奥壁には極めて鮮明な絵が描かれており、男性はその価値を見極め、工事を止めた上に、浮羽女学校（現浮羽究真館高校）に連絡しました。教頭の田中幸夫氏は福岡県の史跡調査委員でもあり、県にすぐさま連絡し、考古学者の有光教一氏、森貞次郎氏によって調査が行われました。そして3年後の昭和28年3月31日に国の史跡に指定されました。この偶然が無ければ代表的な装飾古墳の1つである珍敷塚古墳は現存していなかったでしょう。古墳好きとしては、破壊を止めた自転車の男性の行動に感謝しなければなりません。



昭和45年以前の簡素な木造覆屋

江戸時代には墳丘が壊され、昭和になると爆破までされかけた珍敷塚古墳ですが、辛くも生き永らえ、現在では大切に守り伝えられています。

古墳見学にお越しになった際は、装飾をじっくり眺め、古代人の死生観にあれこれ妄想を膨らませつつ、古墳自体の運命に思いを馳せるのもオススメです。



現在の珍敷塚古墳覆屋

古墳見学のご案内

毎月第3土曜日に装飾古墳の珍敷塚古墳・日岡古墳に加え、月岡古墳・楠名古墳の一般公開をしています。うきは市郷土史会の史跡案内グループが現地解説をします。見学日の5日前までにお申込下さい。
※現在新型コロナウイルス感染拡大防止のため、申込み人数によってはお断りさせていただく場合もございますので、ご了承ください。

●問合せ・申し込み

吉井歴史民俗資料館 ☎75-3120